

令和 5 年 6 月 2 日現在

機関番号：24405

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2019～2022

課題番号：19H01311

研究課題名(和文) 一次史料に基づく近世～近代日本の「遊廓社会」に関する総合的研究

研究課題名(英文) "Yukaku Society" to Modern Japan: a historical synthesis based on primary sources.

研究代表者

佐賀 朝 (Saga, Ashita)

大阪公立大学・大学院文学研究科・教授

研究者番号：40319778

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 13,100,000円

研究成果の概要(和文)：日本近世～近代の国内および植民地の遊廓社会について、遊女・娼妓、遊女屋・貸座敷、周旋業者らが作成した一次史料の調査・研究を進めた。一次史料の分析を通して、娼妓の稼業契約や妓楼経営の実態、娼妓の前借金が容易には減らない仕組みを解明したほか、周旋業者の実態にもメスを入れた。都市社会構造分析の視点に基づく「遊廓社会史」に関する市民向けの叙述作業も着実に進展させることができた。内外の研究交流を進める面では、1970～80年代の地域女性史研究の成果と、そこで発掘された史料の再発見に取り組んだほか、植民地における遊廓社会の比較研究という国際的な連携にも取り組み、共同研究の新たな可能性を示すことができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究が実践した近世～近代日本における遊廓社会の構造分析は、社会の周縁に置かれた民衆の実態、性売買をめぐる男女の非対称な関係、それに立脚した社会的・政治的権力の実態とその問題性を詳細に解明した点で、大きな学術的意義を持つ。特に都市開発史における遊廓の位置や、性売買に連なる様々な集団が織りなす社会的諸関係の解明は、現在も続く性の商品化をめぐる搾取や人身売買などの問題を、ジェンダーの視点から解決に導く上で、今日的意義を持つ。また性売買問題を国際的視野で論じた比較研究の成果は、現在も未解決の日本軍「慰安婦」問題だけでなく、現在における性をめぐる「生きづらさ」の解決にも多くの示唆を与えるものである。

研究成果の概要(英文)：We investigated primary sources created by courtesans, prostitutes, brothel owners, rental establishments, and intermediaries, linked to yukaku (brothel quarter) society in Japan and its colonies between the early modern to modern period. Through analysis of primary sources, we elucidated the realities of the contractual agreements in the prostitution industry, the management of brothels, and the mechanisms that made it difficult for prostitutes to reduce their debts. We also scrutinized the activities of intermediaries. Furthermore, we helped to produce narratives on "the history of yukaku Society" aimed at the general public, based on an analysis of urban social structures. To promote academic exchange domestically and internationally, we engaged in materials unearthed in regional women's history from the 1970s to 1980s and worked on comparative studies of yukaku societies in colonial territories, demonstrating new possibilities for collaborative research.

研究分野：日本近現代史

キーワード：日本史 ジェンダー

1. 研究開始当初の背景

本課題は、2011～14 年度交付課題「近世～近代日本における「遊廓社会」の比較類型史的研究」(以下、前々課題と略す)、2015～18 年度交付課題「近世～近代日本における遊女・娼妓と「遊廓社会」の総合的研究」(以下、前課題)を引き継ぐものである。

(1) 前々課題の成果—「遊廓社会」の比較類型史

上記のうち、前々課題は、a 1990 年代から進展した、都市社会構造論の視点にもとづく近世「遊廓社会」史研究、b 幕末～明治初年の遊廓と近代公娼制度成立史に関する研究、c 20 世紀における国際的人身売買問題や植民地公娼制の研究、の三つを前提とし、これらを比較類型史・通時代史的分析により総合化する形で構想、実践された。具体的には、①列島各地における遊廓・遊所類型と関連史料・関連研究の掘り起こしとデータベース化、②それを前提とした比較史の視点による遊廓の共同研究を具体的課題とし、2013～14 年に佐賀朝・吉田伸之編『シリーズ遊廓社会』全 2 冊(吉川弘文館、以下、シリーズと略す)を刊行するなど、大きな成果を上げた。そこでは、近世の三都(江戸・京・大坂)と長崎、地方城下町の遊廓や茶屋町、藩領の旅籠屋、港津や河岸の遊所のほか、近代の軍都、温泉町、都市近郊地の遊廓や芸者町など、多様な類型を掘り起こし、それらの相互比較も行った。

(2) 前課題の成果—遊女・娼妓と「遊廓社会」の対抗関係や多様な論点

また、前課題では、d 2011 年以降、ジェンダーの視点にもとづく近世「売春社会」史研究と「遊廓社会」史の接合を意識的に追究し、多彩な研究成果を上げていた横山百合子(同「19 世紀都市社会における地域ヘゲモニーの再編」『歴史学研究』885 号、2011 年など)を研究分担者に迎え、研究主題にも「遊女・娼妓と」という文言を加えて、③遊廓の女性たちと遊廓社会との矛盾・対抗関係にあらためて注目した共同研究を進めた。その結果、前々課題を継承した比較類型史的な分析作業をさらに深化させただけでなく、遊廓社会の底辺で奴隷的に搾取された遊女・娼妓とそのたたかきをも研究対象に据え、近世後期における性売買の「大衆化」が女性たちの境遇に与えた影響や、芸娼妓解放令前後の芸娼妓たちの動向、近代以降の芸娼妓が置かれた過酷な実態とそれへの様々な抵抗の実態を明らかにした。その過程では、近世の遊女の身分的性格をどう見るかという重要な議論も行われ(吉田伸之「序文—三都と地方都市—」シリーズ 1 所収など)、いわゆる「従軍慰安婦」問題をめぐって提起されている性奴隷制概念なども念頭に置きながら、近世～近代における公娼制度の歴史的性格に関する議論も深化させた(「特集 近代公娼制と軍「慰安所」のあいだ」『歴史科学』232 号、2018 年、小野沢あかね・佐賀朝が執筆)。

前課題では、他にも i 近世芝居町における男娼をはじめとする遊廓と芝居地の相互関係、ii 遊廓・芝居・相撲などに共通して見出せる客と性売買・興行を仲介する「茶屋」の近世社会における固有の位置、iii 芸者・芸妓や芸者町と遊廓の相互関係、iv 遊廓経営を支える金融ネットワークや女衞(周旋業者)を担い手とする遊女・娼妓の「供給」構造も検討した。また明治期の府県史料の調査により v 芸娼妓解放令前後の各府県における遊廓統制の実態解明やその比較も進め(佐賀「維新変革と性売買問題—芸娼妓解放令を素材に—」吉田伸之ほか編『明治 150 年で考える』2018 年)、vi 幕末維新期の洋妾問題と外国人遊廓に関する研究(吉田ゆり子『近世の家と女性』山川出版社、2016 年)、vii 植民地公娼制度の研究でも大きな成果が上げた(金富子・金栄『植民地遊廓』吉川弘文館、2018 年)。さらに、全国の都道府県立文書館・資料館などが所蔵する公文書類に加え、栃木県烏山遊廓の経営帳簿類(駒澤大学図書館所蔵)や、横浜遊廓・岩亀楼関係文書(横浜開港資料館所蔵)、宮城県若柳町遊廓の阿部家文書(東北歴史博物館所蔵)など、多数の一次史料を発掘したことで、調査・収集を行い、さらなる研究展開の可能性が開けた。

(3) 本申請課題の位置

以上から、本課題は、上記の「遊廓社会」史に関するこれまでの共同研究の方法と成果をふまえて、さらに、一次史料の厳密な分析・検討を通じて、近世～近代における遊女・娼妓と「遊廓社会」の実態について、多角的で総合的な研究を進めるべく構想された。

2. 研究の目的

本課題においても、前々課題以来の(1)列島各地の遊廓に関する歴史情報・史料・研究成果のネットワーク化による基礎研究への貢献という目的を継承することとした。具体的には、これまでの共同研究の成果を一般読者や歴史研究の初学者をも念頭に置き、分かりやすく解説する『遊廓社会史入門(仮題)』の企画・出版を進めるために、a これまでの二課題で収集・蓄積してきた列島諸地域の遊廓・遊所に関する基本情報を整理し、b 遊廓研究の研究史整理をふまえて「遊廓社会」史研究の基本的な視点と方法を提唱し、c 若手研究者の研究発表の機会を設けることを重視した。当該分野には西山松之助編『日本史小百科 遊女』(東京堂出版、1994 年、初版 1979 年)があり現在も参照すべき成果ではあるが、現在の研究水準からすると大幅な書き直しが必要な部分も多く、こうした入門書の刊行は、今後の研究にとって、きわめて大きな意義を有する。

また、本課題では、前課題で掲げた(2)遊女・娼妓に即した遊廓研究を推進することで、ジェンダーの視点もふまえ、性売買をめぐる社会問題を、歴史的主体である女性の側から構造的に解明するという課題も継承した。本課題での具体的な実践としては、主題に掲げた一次史料に基づく遊廓の内部構造の解明作業を最も重視した。その具体的な作業課題としては、a 前課題の半ばから開始した栃木県烏山遊廓の経営帳簿の分析作業を継承し、遊客名簿、娼妓計算帳、遊興台帳と

いった複数の帳簿類を複合的に検討することで妓楼経営の内部的実態を明らかにしていく作業、b 同じく前課題で撮影・収集を行った横浜遊廓関係文書に含まれる明治初年～10年代の遊女・娼妓の奉公・就業や前借金に関する契約書類の検討作業、c 同様に前課題で見出した宮城県若柳町遊廓の妓楼経営文書である阿部家文書の総合的な研究（特に妓楼と周旋業者の相互関係の分析が可能な書簡類の検討）などを挙げた。また、データベースの補足・追加作業の一環として、さらなる一次史料の調査・発掘を進めることとした。

以上、二つの目的設定は、①広域に及ぶ遊廓事例を、近世～近現代の長期にわたり比較類型史的に分析してきた申請者らの共同研究をさらに拡大し、その方法を広く普及していくという点、②遊女・娼妓の存在形態や女性たちと遊女屋・貸座敷業者や女衞・周旋業者あるいは公権力などとの矛盾に注目しながら、社会構造論の視角から「遊廓社会」の内部構造を解明していくという点などで、きわめて独創的なものであり、本分野における研究の発展にも大きな効果を持つものである。また、一次史料に基づく内部構造分析という課題設定は、特に近代史分野における遊廓研究の革新を目指して設定したのもでもあった。

3. 研究の方法

本課題では、上記2で述べた本共同研究ならではの二つの課題設定を受けて、(1)基礎研究情報の蓄積と共有・公開、(2)一次史料の分析に基づく「遊廓社会」の内部構造研究を二本柱として共同研究を進め、(3)研究会・シンポジウムを開催することで、成果の発信と課題の整理も行った。

(1) 基礎研究情報の蓄積と共有・公開

a. 「遊廓・遊所研究データベース」の補足・追加作業 前々課題で準備を進め、前課題で開設したWEBサイト「遊廓・遊所研究データベース」の維持と補足・追加作業は、本課題でもbに述べる図書への掲載を念頭に進めた。

b. 『遊廓社会史入門（仮題）』 前課題で準備を進めてきた出版企画『遊廓社会史入門（仮題）』の前提となる、都市社会史の視点に基づく「遊廓社会史」研究の成果に関する叙述の検討を行った。その内容は、文化史的な遊廓像を超える視点から遊廓を描くものである。そこでは、性売買に関係した営業者たちに大きな利潤をもたらすものと見做された遊廓が、都市開発の手段として利用される社会構造を、一次史料の検討やジェンダーの視角に基づき叙述している。

c. 現地調査・研究会の開催と日常的調査 新型コロナウイルス感染症の拡大の影響により、当科研関係者の所属機関附属の図書館や近隣の博物館・資料館等における日常的な調査を中心に進めた（中之島図書館・大阪公立大学図書館・関西大学図書館・天理大学図書館など）。また研究期間の後半には、感染状況の緩和も受けて、現地調査を行った（横浜・高知・松山）。その結果、愛媛県・道後松ヶ枝町遊廓関連史料を発掘し、その内容や先行研究をめぐって現地研究者との研究交流会を実施できたことは、大きな成果であったと言える。一次史料の分析を進めるため企画し、研究期間後半より開始した少人数による一次史料研究会は、2021～22年度に通算18回行うことができ、これを基盤に全国学会の企画を準備するなど、大きな成果に繋がった点も特筆される。また、遊廓社会研究会もオンラインを活用する形で毎年2～4回開催できた。そして、2022年度末に開催した科研総括セミナー（ハイブリッド）において、それらの成果を共有し、代表者・分担者以外の参加も得て、本科研の到達点と課題を確認することができた。

(2) 一次史料の分析に基づく内部構造研究

本課題での最重要課題は、これまでに発掘した複数の一次史料群を厳密・詳細に検討し、新たな研究成果を創造し、発信することであった。具体的には、a 前課題を継承した栃木県烏山遊廓の経営帳簿の分析作業（遊客名簿、娼妓計算帳、遊興台帳の複合的分析）を通じた妓楼経営の実態解明、b 前課題で撮影・収集済みの横浜遊廓関係文書に含まれる明治初年～10年代の遊女・娼妓の契約書類の分析、c 前課題で端緒的・部分的調査を行った宮城県若柳町遊廓の妓楼経営文書である阿部家文書、d 近畿大学中央図書館所蔵「金沢遊廓芸娼妓関係文書」（小原文書）の娼妓から周旋業者への手紙、e 大和郡山洞泉寺遊廓史料（娼妓名簿）、f 大阪公立大学所蔵南廓娼妓履歴・契約書綴等の総合的な研究を進めた。以上の分析作業の成果の一部は、2021～22年度に複数の論文・ノート・史料紹介などの形で発信された。具体的には、aについては、一次史料研究会で議論を重ねて、総括セミナーにおいて中間総括的な研究発表を得た。bについては一通りの分析作業を終えて、その成果の一部を公表し、成果全体についても近日中に公表が可能である。c・fについては、部分的に着手したところであるが、d・eについては、その成果が全国学会を含む複数の研究発表や論文として結実した。

(3) 研究会とシンポジウムの開催を通じた内外への発信

研究期間中の毎年度にわたり、①に述べた現地調査研究会は、新型コロナウイルス感染症の影響により愛媛の近代史文庫での開催のみであったが、年2～4回の「遊廓社会」研究会、一次史料の検討を少人数で行う小研究会を通算18回開催した。2020年度の国立歴史民俗博物館企画展示「性差の日本史」は、本科研研究分担者が深く関わり、2021年12月に開催された歴史科学協議会大会第二日目の企画「性売買・性暴力と国家・地域・個人」は、本科研の関係者が企画・司会・報告の大半を務めたもので、本科研の研究成果を、広く社会に共有する重要な機会となった。以上をふまえ、2022年度末には総括セミナーを開催し、本課題の成果の総括を行った。

4. 研究成果

2020年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で活動が制約されたため、補助金を繰り越し、2020年度繰越金で2021・22年度に課題の活動を行った。2021年度も同様に補助金を繰り越し、2022年度にも2021年度の課題の活動を行った。以下は、支出財源年度ごとに、活動内容を記述した。

(1) 史料調査・フィールドワーク

[2019年度] 9月22～25日東北歴史博物館・遠野市立博物館・国営昭和記念公園（旧立川陸軍飛行場）、宮城県若柳町遊廓阿部家文書の調査・収集と若柳町・遠野・花巻の旧遊廓地および旧立川陸軍飛行場と周辺の赤線跡の巡見／2021年1月29日神奈川県立公文書館、明治初年布告布達類等の調査・収集／2022年2月5～6日神奈川県立公文書館・神奈川県立図書館、明治初年の布告布達類・遊廓案内記等の関係史料の調査・収集および永楽町・真金町遊廓跡地の巡見。ほかに、奈良県大和郡山市の洞泉寺遊廓川本楼（町家物語館）関係史料（大正・昭和期の遊客名簿、娼妓名簿など）の調査・デジタル写真撮影。

[2020年度] 2021年7月22～26日、吉沢英明邸、明治～昭和期の講談本・演芸関係資料「吉沢英明氏のコレクション」の調査に参加、近世・深川の岡場所の一次史料や昭和期・仙台の貸座敷経営史料の収集、深川宿の巡見／2021年8月20～22日、吉沢英明邸・埼玉県立文書館、「吉沢コレクション」埼玉県城古文書類の埼玉県立文書館への引取りの立ち合いおよび埼玉県立文書館所蔵遊廓関係史料閲覧・撮影／2022年8月25～28日、オーテピア高知図書館・高知県立文学館・愛媛県立図書館、高知・愛媛県内の遊廓関係史料調査および旧遊廓地の踏査／2022年9月4日、横浜開港資料館、五味文庫史料撮影／2022年10月15日、長谷川家文書所蔵者宅、長谷川（西村）家文書の寄贈に関する協議／2022年11月5～6日、国立公文書館・横浜開港資料館・旧神奈川宿・旧品川宿、明治期神奈川県布告・布達調査収集、山室宗作家文書調査収集、旧神奈川宿・旧品川宿巡見／2022年12月25日、神奈川県立図書館・横浜市立中央図書館、横浜遊廓関係史料調査収集

[2021年度] 2022年1～3月、長谷川（西村）家文書の整理

[2022年度] 6月6日、関西大学図書館、遊廓関係史料調査・収集／7月16日、東向島旧玉ノ井跡地、私娼街踏査／8月24日近畿大学、玉ノ井関係史料調査・整理／3月9～11日、石手寺・近代史文庫・別子銅山記念館、道後松ヶ枝町遊廓史料調査検討および旧遊廓地巡見

(2) 遊廓社会研究会および関連研究会等

[2019年度] 7月14日立教大学、第41回遊廓社会研究会、書評：金富子・金栄『植民地遊廓—日本の軍隊と朝鮮半島』（吉川弘文館、2018年）、評者：吉見義明・藤永壯、リプライ：金富子・金栄／12月7日立教大学池袋キャンパス、第42回遊廓社会研究会、書評：吉見義明『買春する帝国—日本軍「慰安婦」問題の基底』（岩波書店、2019年）、評者：佐賀朝・金富子、リプライ：吉見義明

[2020年度] 10月24日オンライン開催、当科研助成（植民地遊廓科研主催）、小野沢あかね『『性暴力被害を聴く』出版趣旨とその内容』ほか／1月23日オンライン開催、第43回遊廓社会研究会、報告：塚田孝「史料紹介：大坂「千日墓所一件」に見える心中」／3月28日オンライン開催、第44回遊廓社会研究会、報告：横山百合子「歴博企画展示「性差の日本史」の成果と課題—「第6章 性の売買と社会」を中心に—」

[2021年度] 9月23日オンライン開催、第43回遊廓社会研究会、報告：村和明「近世巨大商家の遊廓利用制度—男性集団の性と階層」／10月3日オンライン開催、第44回遊廓社会研究会（大阪歴史科学協議会共催）、報告：人見佐知子「娼妓の前借金返済はなぜ困難だったのか—一次史料にみる娼妓と近代公娼制度—」／11月13日オンライン開催、第45回遊廓社会研究会（植民地遊廓科研共催）、「『京城』新町遊廓の空間的分析と朝鮮人遊廓の形成」／12月5日歴史科学協議会（大会第2日目）、吉元加奈美「天保改革下の遊所統制の転換と堀江新地」、人見佐知子氏「娼妓と近代公娼制度—一次史料からみる娼妓の住み替えと廃業」／2月17日中部大学、第46回遊廓社会研究会（中部大学大学院国際人間学研究所・人文学部歴史地理学会主催）、佐賀朝「近代日本の遊廓と公娼制度の形成・展開」、人見佐知子コメント／遊廓社会小研究会を8回開催

[2022年度] 7月23日オンライン開催、第47回遊廓社会研究会（植民地遊廓科研共催）、報告：殿垣くるみ「1910～20年代福岡県における性売買業者と地域社会」、コメント：佐藤敦子／12月26日オンライン開催、第48回遊廓社会研究会、報告：横山百合子「江戸吉原遊廓における一売女訴訟と売女の処遇について」

(3) 総括セミナー

2023年3月21日、立教大学、総括セミナー（第48回遊廓社会研究会、植民地遊廓科研共催）、「一次史料に基づく「遊廓社会」史研究の到達点と課題」（人見佐知子「一次史料にもとづく近代日本の遊廓社会史研究の現状と課題」、小野沢あかね「貸座敷経営と娼妓の玉代—鳥山遊廓福二楼の「酒食台帳」「遊客名簿」から」、加藤圭木「植民地朝鮮における性買売研究の展望—地域社会史の視点から—」）

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計46件（うち査読付論文 9件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 7件）

1. 著者名 佐賀朝	4. 巻 12
2. 論文標題 「「遊廓社会」の近代化 研究史整理と一次史料の検討から」	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 塚田孝・佐賀朝・渡辺健哉・上野雅由樹編『周縁的社会集団と近代』（文学研究科叢書12）清文堂出版	6. 最初と最後の頁 111-142
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松井洋子	4. 巻 293
2. 論文標題 「書評 国立歴史民俗博物館監修「性差の日本史」展示プロジェクト編『新書版 性差(ジェンダー)の日本史』」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『ヒストリア』	6. 最初と最後の頁 42-50
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小野沢あかね	4. 巻 866
2. 論文標題 「2021年度大会報告2日目「性売買・性暴力と国家・地域・個人」を聞いて」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『歴史評論』	6. 最初と最後の頁 75-80
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小野沢あかね	4. 巻 83-1
2. 論文標題 「日本軍「慰安婦」問題と性売買」	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 立教大学史学会『史苑』	6. 最初と最後の頁 1-11
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 人見佐知子	4. 巻 34
2. 論文標題 「娼妓からみた近代日本の公娼制度：周旋業者・借金・梅毒」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『民俗文化』	6. 最初と最後の頁 187-212
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 人見佐知子	4. 巻 866
2. 論文標題 「娼妓と近代公娼制度：一次史料からみる娼妓の住み替えと廃業」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『歴史評論』	6. 最初と最後の頁 38-51
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 人見佐知子	4. 巻 251
2. 論文標題 「娼妓の前借金返済はなぜ困難だったのか：大和郡山洞泉寺遊廓を事例に」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『歴史科学』	6. 最初と最後の頁 31-47
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 人見佐知子	4. 巻 24
2. 論文標題 「妓楼遺構の保存と活用をめぐる一考察」	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 『心の危機と臨床の知』	6. 最初と最後の頁 38-52
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 人見佐知子	4. 巻 3543
2. 論文標題 「書評 林博史著『帝国主義国の軍隊と性：売春規制と軍用性的施設』」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『図書新聞』	6. 最初と最後の頁 1-1
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 人見佐知子	4. 巻 250
2. 論文標題 「二〇二一年五月例会に参加して：議論のまとめと若干の私見（二〇二一年五月例会 ジェンダーの視点から日本史を展示する意義と可能性：歴博企画展示「性差の日本史」を素材に）」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『歴史科学』	6. 最初と最後の頁 59-63
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 人見佐知子	4. 巻 1月8日
2. 論文標題 「書評 シンバク・ジニョン著『性売買のブラックホール』」	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 『しんぶん赤旗』	6. 最初と最後の頁 6-6
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 人見佐知子	4. 巻 3473
2. 論文標題 「書評 ボムナル著『道一つ越えたら崖っぷち』」	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 『週刊読書人』	6. 最初と最後の頁 6-6
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 横山百合子	4. 巻 250
2. 論文標題 「国立歴史民俗博物館企画展示「性差(ジェンダー)の日本史」：成果と課題 私論 (二〇二一年五月例会ジェンダーの視点から日本史を展示する意義と可能性：歴博企画展示「性差の日本史」を素材に)」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『歴史科学』	6. 最初と最後の頁 37-49
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 横山百合子	4. 巻 235
2. 論文標題 「共同研究・展示の経過と概要 (日本列島社会の歴史とジェンダー)」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『国立歴史民俗博物館研究報告』	6. 最初と最後の頁 1-23
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 横山百合子	4. 巻 98
2. 論文標題 「戦争・都市・ジェンダー 江戸吉原遊廓を素材として」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『法政史学』	6. 最初と最後の頁 1-20
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 横山百合子	4. 巻 235
2. 論文標題 「幕末維新时期新吉原遊廓における遊女屋・遊客・遊女：高橋由一画「花魁」のモデル稲本屋小稲ほか遊女の書状を素材として」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『国立歴史民俗博物館研究報告』	6. 最初と最後の頁 225-250
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 横山百合子	4. 巻 1024
2. 論文標題 「書評 高木まどか『近世の遊廓と客：遊女評判記にみる作法と慣習』」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『歴史学研究』	6. 最初と最後の頁 57-60
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 横山百合子	4. 巻 864
2. 論文標題 「書評 沢山美果子著『性からよむ江戸時代：生活の現場から』」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『歴史評論』	6. 最初と最後の頁 91-95
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 横山百合子	4. 巻 109
2. 論文標題 「歴史の中の性の売買」	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 『"人間と性" 教育研究協議会編 季刊SEXUALITY』	6. 最初と最後の頁 100-107
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉元加奈美	4. 巻 8
2. 論文標題 「コラム 大坂の茶屋仲間」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 新体系日本史8『社会集団史』	6. 最初と最後の頁 145-153
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉元加奈美	4. 巻 866
2. 論文標題 「天保改革下の遊所統制と堀江新地」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『歴史評論』	6. 最初と最後の頁 22-37
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐賀朝	4. 巻 24
2. 論文標題 「ロヒート・デー論文掲載にあたって：隠し立てしない娼婦による訴訟：インド憲法における性、労働、自由」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『都市文化研究』	6. 最初と最後の頁 160-161
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 松井洋子	4. 巻
2. 論文標題 「日本商館の帳簿」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 松方冬子編『オランダ語史料入門 新刊 日本史を複眼的にみるために』	6. 最初と最後の頁 101-108
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 人見佐知子	4. 巻 33
2. 論文標題 「娼妓の住み替えをめぐる一考察：娼妓の手紙から」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『民俗文化』	6. 最初と最後の頁 173-190
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 人見佐知子	4. 巻 54
2. 論文標題 「中央図書館所蔵「金沢遊郭芸娼妓関係文書」について - 近代公娼制度下の娼妓と周旋業者」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『香散見草』	6. 最初と最後の頁 2-5
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 人見佐知子	4. 巻 859
2. 論文標題 「娼妓と近代公娼制度 : 一次史料からみる娼妓の住み替えと廃業」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『歴史評論』	6. 最初と最後の頁 53-55
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 横山百合子	4. 巻 231
2. 論文標題 「江戸東京の明治維新 身分とジェンダーの視点から」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『人民の歴史学』	6. 最初と最後の頁 14-25
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 金富子	4. 巻 810
2. 論文標題 「「公娼」論・「植民地公娼」論を検証する」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『部落解放』	6. 最初と最後の頁 31-39
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉田ゆり子	4. 巻 1008
2. 論文標題 「展示評 性差（ジェンダー）の日本史」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『歴史学研究』	6. 最初と最後の頁 58-62
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 塚田孝	4. 巻 238
2. 論文標題 「研究ノート：大坂「千日墓所一件」に見える心中」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『部落問題研究』	6. 最初と最後の頁 80-104
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 佐賀朝	4. 巻 243
2. 論文標題 「書評 吉見義明『買春する帝国 日本軍「慰安婦」問題の基底』」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『歴史科学』	6. 最初と最後の頁 38-46
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 人見佐知子	4. 巻 -
2. 論文標題 「遊廓と遊女」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 総合女性史学会『ジェンダー分析で学ぶ 女性史入門』岩波書店	6. 最初と最後の頁 119-141
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 人見佐知子	4. 巻 -
2. 論文標題 「娼妓に賞与金? 「待遇改善」の限界」ほか	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 国立歴史民俗博物館『企画展示 性差の日本史』(図録)	6. 最初と最後の頁 212-214、216-224
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 横山百合子	4. 巻 944
2. 論文標題 「遺跡を尋ねて 第 期(第5回)新吉原 遊女小稲と幕末維新期の新吉原遊廓」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『学士會会報』	6. 最初と最後の頁 68-76
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 横山 百合子	4. 巻 24
2. 論文標題 「東京の明治維新 錦絵にみる町方住民の意識と維新政府の統治」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『経済史研究』	6. 最初と最後の頁 1~20
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.24712/keizai-shikenkyu.24.0_1	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 松井洋子	4. 巻 -
2. 論文標題 「「四つの口」 長崎の女性」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 高埜利彦編『近世史講義 女性の力を問いなおす』	6. 最初と最後の頁 61-78
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小野沢あかね	4. 巻 993
2. 論文標題 「戦時期日本社会史研究の新地平コメント：ジェンダー・女性の経験の視点から」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『歴史学研究』	6. 最初と最後の頁 42-45
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小野沢あかね	4. 巻 61-1
2. 論文標題 「書評：金富子・金栄『植民地遊廓 日本の軍隊と朝鮮半島』吉川弘文館、2018年」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『アジア経済』	6. 最初と最後の頁 72-75
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 人見佐知子	4. 巻 232
2. 論文標題 「書評 吉見義明著『買春する帝国 日本軍「慰安婦」問題の基底』」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『部落問題研究』	6. 最初と最後の頁 92-104
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 横山百合子	4. 巻
2. 論文標題 「遊女の終焉へ」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 高埜利彦編『近世史講義 女性の力を問いなおす』ちくま新書	6. 最初と最後の頁 221-238
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 横山百合子	4. 巻
2. 論文標題 「遊女の「日記」を読む 嘉永二年梅本屋佐吉抱え遊女付け火一件をめぐる」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 長谷川貴彦編『エゴ・ドキュメントの歴史学』岩波書店	6. 最初と最後の頁 179-214
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 金富子	4. 巻
2. 論文標題 「「慰安婦」は、ビジネスで、「性奴隷」ではない？」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 岡本有佳、加藤圭木編『だれが日韓「対立」をつくったのか』大月書店	6. 最初と最後の頁 46-53
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 塚田孝	4. 巻
2. 論文標題 「褒賞からみる町」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 塚田孝編『シリーズ三都 大坂巻』東京大学出版会	6. 最初と最後の頁 123-133
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 塚田孝	4. 巻
2. 論文標題 「道頓堀周辺の地域社会構造」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 塚田孝編『シリーズ三都 大坂巻』東京大学出版会	6. 最初と最後の頁 303-330
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 神田由築	4. 巻 6
2. 論文標題 「関門海峡をめぐる芸能興行と都市空間 下関を中心に」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『都市史研究』	6. 最初と最後の頁 84-90
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉田伸之	4. 巻
2. 論文標題 「駕籠舁」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 吉田伸之編『シリーズ三都 江戸巻』東京大学出版会	6. 最初と最後の頁 247-258
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計41件（うち招待講演 22件 / うち国際学会 7件）

1. 発表者名 人見佐知子
2. 発表標題 「金沢の芸娼妓紹介人と女性たち」
3. 学会等名 第63回北陸史学会大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 人見佐知子
2. 発表標題 「一次史料にもとづく近代日本の遊廓社会史研究の現状と課題」
3. 学会等名 第三次遊廓科研「一次史料に基づく近世～近代日本の「遊廓社会」に関する総合的研究」（基盤研究B）総括セミナー
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 横山百合子
2. 発表標題 「戦争・都市・ジェンダー 江戸吉原遊廓を素材として」
3. 学会等名 法政大学史学会2022年度大会講演（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 横山百合子
2. 発表標題 「ジェンダー史の視点からみたモノ資料の可能性 人形(ひとがた)・着物・紙を例として」
3. 学会等名 第37回イギリス女性史研究会JWHNシンポジウム：「モノ」の歴史とジェンダー（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 横山百合子
2. 発表標題 「近世遊廓をどう見るか - 新吉原遊廓を素材として -」
3. 学会等名 国立歴史民俗博物館第439回歴博講演会（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 横山百合子
2. 発表標題 「ジェンダーから見直す仕事とくらしの日本史」
3. 学会等名 大学共同利用機関法人自然科学研究機構（第34回自然科学研究機構シンポジウム）（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 横山百合子
2. 発表標題 「江戸吉原遊廓における売女訴訟と売女の処遇について」
3. 学会等名 第三次遊廓科研「一次史料に基づく近世～近代日本の「遊廓社会」に関する総合的研究」(2022年度第2回遊廓社会研究会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 横山百合子
2. 発表標題 「『アカデミズムとジェンダー』を読んで」
3. 学会等名 歴史学研究会(歴研シンポジウム『アカデミズムとジェンダー』について語ろう!)(招待講演)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 神田由築
2. 発表標題 「日本近世の「語り芸」の伝播と受容」
3. 学会等名 日本近世の「語り芸」の伝播と受容(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 吉元加奈美
2. 発表標題 「近世京都の遊所統制と天保改革」
3. 学会等名 小円座「近世・近代京都の史料と社会」(都市・周縁 史料と社会 科研・大阪公立大学UCRC)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 佐賀朝
2. 発表標題 「朴鉉氏の報告へのコメント 日本近世～近現代「遊廓社会」史研究の立場から」
3. 学会等名 植民地遊廓科研・遊廓科研共催セミナー「「京城」新町遊廓の空間的分析と朝鮮人遊廓の形成」
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 佐賀朝
2. 発表標題 「近代日本の遊廓と公娼制度の形成・展開」
3. 学会等名 「シンポジウム 幕末から近代における性の売買」（遊廓社会研究会共催、中部大学大学院国際人間学研究科・人文学部歴史地理学会主催）（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 人見佐知子
2. 発表標題 「娼妓の前借金返済はなぜ困難だったのか：一次史料にみる娼妓と近代公娼制度」
3. 学会等名 大阪歴史科学協議会10月例会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 人見佐知子
2. 発表標題 「娼妓と近代公娼制度：一次史料からみる娼妓の住み替えと廃業」
3. 学会等名 歴史科学協議会（全国）第55回大会第2日目「性売買・性暴力と国家・地域・個人」（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 人見佐知子
2. 発表標題 コメント
3. 学会等名 シンポジウム 幕末から近代における性の売買（遊廓社会研究会共催、中部大学大学院国際人間学研究科・人文学部歴史地理学会主催） （招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 人見佐知子
2. 発表標題 「遊廓と娼妓：トラウマの視点から」
3. 学会等名 甲南大学人間科学研究所研究会（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 横山百合子
2. 発表標題 「江戸東京の明治維新 身分とジェンダーの視点から」
3. 学会等名 東京歴史科学研究会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 横山百合子
2. 発表標題 「『リテラシーの起点』という視座」
3. 学会等名 『近代日本の日記文化と自己表象研究会』
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 横山百合子
2. 発表標題 「芸能から性の搾取まで－「遊女」の歴史をふりかえる」
3. 学会等名 総合研究大学院大学分科フォーラム（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 横山百合子
2. 発表標題 「徐智瑛「植民地時代の妓生 妓生集団の近代的再編の様相を中心に」へのコメント」
3. 学会等名 2021年度植民地遊廓科研オンラインセミナー
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 金富子
2. 発表標題 「「日本公娼制／植民地公娼制／日本軍「慰安婦」制度の異同を再考する」」
3. 学会等名 韓国・日本軍「慰安婦」研究会総会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 金富子
2. 発表標題 「ラムザイヤー「公娼」論・「植民地公娼」論を検証する」
3. 学会等名 東日本部落解放研究所2021年度第1回定例研究会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 金富子
2. 発表標題 「日本の歴史修正主義とサバイバー証言の否定」
3. 学会等名 韓国・金学順公開証言30周年記念国際学術大会（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 吉田ゆり子
2. 発表標題 「儒教思想の日本的受容と職分観念 性別役割に注目して」
3. 学会等名 比較家族史学会2021年度春季大会（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 村和明
2. 発表標題 「近世巨大商家の遊廓利用制度 男性集団の性と階層」
3. 学会等名 遊廓社会研究会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 朴鉉
2. 発表標題 「京城」新町遊廓の空間的分析と朝鮮人遊廓の形成
3. 学会等名 遊廓社会研究会（植民地遊廓科研共催）（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 松井洋子
2. 発表標題 長崎と丸山遊女 異文化接触の場と売買春
3. 学会等名 ジェンダー史学会2020年度シンポジウム企画 「開国の前線に立つ女性たち 近代の性売買におけるインターナショナリティ」
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 小野沢あかね
2. 発表標題 ラムザイヤー氏『娼妓契約論』のどこが問題か
3. 学会等名 Fight for Justice主催（歴史学研究会・日本史研究会・歴史科学協議会・歴史教育者協議会共催）オンラインシンポジウム
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 人見佐知子
2. 発表標題 コメント 近代公娼制度研究の視座から
3. 学会等名 植民地遊廓科研セミナー「釜山における日本式遊廓の導入と定着」
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 横山百合子
2. 発表標題 歴博企画展示「性差の日本史」の成果と課題 「第6章性の売買と社会」を中心に 」
3. 学会等名 遊廓社会研究会（科研「一次史料に基づく近世～近代日本の「遊廓社会」に関する総合的研究」主催）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 金富子
2. 発表標題 日本 / 植民地の公娼制
3. 学会等名 日本軍「慰安婦」研究会（韓国）（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 塚田孝
2. 発表標題 史料紹介：大坂「千日墓所一件」に見える心中
3. 学会等名 遊廓社会研究会（第3次遊廓科研主催 / 都市・周縁 史料と社会 科研共催研究会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 佐賀朝
2. 発表標題 「書評会 吉見義明『買春する帝国 日本軍「慰安婦」問題の基底』」
3. 学会等名 遊廓社会研究会（第三次遊廓科研）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 佐賀朝
2. 発表標題 「近世～近代移行期の居留地付き遊廓と都市社会 横浜・東京・大阪の比較から」
3. 学会等名 ワークショップ「日中都市史研究の新しい課題・方法・展開 周縁的社会集団と近代」(上海大学)(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 小野沢あかね
2. 発表標題 「元Aサインパーホステスの経験を聞く 米軍統治下コザ市（沖縄）におけるライフ・ヒストリーの方法」
3. 学会等名 韓国オーラル・ヒストリー学会（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 小野沢あかね
2. 発表標題 「戦時期日本研究の新地平コメント：ジェンダー・女性の経験の視点から」
3. 学会等名 歴史学研究会近代史部会・現代史部会合同書評会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 横山百合子
2. 発表標題 「遊女の群像 身分制解体期における"財"から"主体"への遊女の変容」
3. 学会等名 『日本史研究会近現代史部会6月例会「生きること」とジェンダー』（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 金富子
2. 発表標題 「被害証言と歴史修正主義的フェミニズム」
3. 学会等名 韓国口述史学会・創立10周年記念学術大会（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 金富子
2. 発表標題 「書評：吉見義明氏『買春する帝国 日本軍「慰安婦」問題の基底』」
3. 学会等名 遊廓社会研究会（第三次遊廓科研）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 吉田伸之
2. 発表標題 「無宿源次郎と品川宿村 江戸の周縁社会に生きる」
3. 学会等名 品川宿史談会講演会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 齊藤俊江
2. 発表標題 「商都飯田の遊郭社会と娼妓の生活 娼妓はなぜやめられなかったのか？」
3. 学会等名 パウラックセミナー「商都飯田の遊郭社会と娼妓の生活 娼妓はなぜやめられなかったのか？」（招待講演）
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計13件

1. 著者名 シンバク・ジニョン、金 富子、小野沢 あかね、仁藤 夢乃、大畑 正姫、萩原 恵美	4. 発行年 2022年
2. 出版社 ころから	5. 総ページ数 256
3. 書名 『性売買のブラックホール』	

1. 著者名 塚田孝、佐賀朝、渡辺健哉、上野雅由樹 編	4. 発行年 2023年
2. 出版社 清文堂出版	5. 総ページ数 478
3. 書名 『周縁的社会集団と近代』	

1. 著者名 松方冬子、西澤美穂子、田中葉子、松井洋子、日蘭交渉史研究会	4. 発行年 2021年
2. 出版社 東京大学出版会	5. 総ページ数 560
3. 書名 『一九世紀のオランダ商館 下：商館長メイランとシッテルスの日記』	

1. 著者名 女性国際戦犯法廷20周年実行委員会編、金富子・梁澄子・岡本有佳・石田凌太責任編集	4. 発行年 2021年
2. 出版社 世織書房	5. 総ページ数 221
3. 書名 『女性国際戦犯法廷20年判決ノ証言をどう活かすか 日本軍性奴隷制を裁く 20周年国際シンポジウムの記録』	

1. 著者名 国立歴史民俗博物館、「性差の日本史」展示プロジェクト	4. 発行年 2021年
2. 出版社 集英社インターナショナル	5. 総ページ数 224
3. 書名 新書版『性差の日本史』	

1. 著者名 高麗博物館朝鮮女性史研究会（金富子寄稿）	4. 発行年 2021年
2. 出版社 社会評論社	5. 総ページ数 352
3. 書名 『朝鮮料理店・産業「慰安所」と朝鮮の女性たち』	

1. 著者名 総合女性史学会（人見佐知子ほか）	4. 発行年 2021年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 338
3. 書名 ジェンダー分析で学ぶ 女性史入門	

1. 著者名 国立歴史民俗博物館（横山百合子、人見佐知子、小野沢あかね、ほか）	4. 発行年 2020年
2. 出版社 一般財団法人歴史民俗博物館振興会	5. 総ページ数 320
3. 書名 企画展示 性差の日本史	

1. 著者名 Yuriko YOKOYAMA	4. 発行年 2020年
2. 出版社 University of Michigan Press	5. 総ページ数 289
3. 書名 Chapter9 Expanding and Multilayering Networks in Nineteenth-Century Japan: The Case of the Shin-Yoshiwara Red-Light District (Women and Networks in Nineteenth-Century Japan)	

1. 著者名 金富子、小野沢 あかね	4. 発行年 2020年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 284
3. 書名 性暴力被害を聴く 「慰安婦」から現代の性搾取へ	

1. 著者名 横山百合子ほか	4. 発行年 2020年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 261
3. 書名 長谷川貴彦編『エゴ・ドキュメントの歴史学』	

1. 著者名 塚田 孝	4. 発行年 2019年
2. 出版社 東京大学出版会	5. 総ページ数 360
3. 書名 塚田孝編『シリーズ三都 大坂巻』	

1. 著者名 杉森 哲也	4. 発行年 2020年
2. 出版社 放送大学教育振興会	5. 総ページ数 268
3. 書名 『日本の近世』	

〔産業財産権〕

〔その他〕

遊廓・遊所研究データベース
<https://yukakustudy.jp/>

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	松井 洋子 (Matsui Yoko) (00181686)	東京大学・史料編纂所・教授 (12601)	
研究分担者	小野沢 あかね (Onozawa Akane) (00276700)	立教大学・文学部・教授 (32686)	
研究分担者	人見 佐知子 (Hitomi Sachiko) (00457029)	近畿大学・文芸学部・准教授 (34419)	
研究分担者	横山 百合子 (Yokoyama Yuriko) (20458657)	国立歴史民俗博物館・大学共同利用機関等の部局等・名誉教授 (62501)	
研究分担者	吉田 伸之 (Yoshida Nobuyuki) (40092374)	東京大学・大学院人文社会系研究科(文学部)・名誉教授 (12601)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	金 富子 (Kim Puja) (40558102)	東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・教授 (12603)	
研究分担者	吉田 ゆり子 (Yoshida Yuriko) (50196888)	東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・教授 (12603)	
研究分担者	塚田 孝 (Tsukada Takashi) (60126125)	大阪公立大学・大学院文学研究科・客員教授 (24405)	
研究分担者	神田 由築 (Kanda Yutsuki) (60320925)	お茶の水女子大学・基幹研究院・教授 (12611)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	浅野 秀剛 (Asano Shuugou)		
研究協力者	阿部 保志 (Abe Yasushi)		
研究協力者	米谷 博 (Kometani Hiroshi)		

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	齊藤 俊江 (Saito Toshie)		
研究協力者	杉森 哲也 (Sugimori Tetsuya)		
研究協力者	武林 弘恵 (Takebayashi Hiroe)		
研究協力者	ダニエル ボツマン (Daniel Botsman)		
研究協力者	初田 香成 (Hatsuda Kosei)		
研究協力者	松田 法子 (Matsuda Noriko)		
研究協力者	松田 有紀子 (Matsuda Yukiko)		
研究協力者	本康 宏史 (Motoyasu Hiroshi)		

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	屋久 健二 (Yahisa Kenji)		
研究協力者	吉元 加奈美 (Yoshimoto Kanami)		

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関